

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年11月 2日

【評価実施概要】

事業所番号	1070201015
法人名	医療法人社団醫光会
事業所名	グループホームうさぎ
所在地	群馬県高崎市上豊岡町896-2 (電 話) 027-340-7220
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5 コミューン100 1-B
訪問調査日	平成 19年 10 月 2 日

【情報提供票より】(平成 19年 8月 18 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8人	常勤 5 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	5.4

(2)建物概要

建物構造	木造平屋 造り
	1 階建て, 1 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円) 〇無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 〇無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 200 円	昼食 300 円	
	夕食 300 円	おやつ 90 円	
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(8 月 18日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低 83 歳	最高 94 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	はぎわら内科医院 ひろかみ歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員の信頼関係がしっかりと出来ており、常に話し合いを持ちながら、利用者本位の支援に取り組んでいる。利用者が自分のペースでゆったりとした時間を過ごされている様子からも伺い知ることが出来た。協力医と事業所との話し合いがもたれ、健康面の相談や緊急時の往診にも即対応してもらえる体制が出来ている。利用者や家族にとっては心強いものであり、又この事業所と医療機関との関係がホームでの終末期の対応を可能にしている。災害対策については関連施設と共に消防署の協力を得ながら訓練に取り組んでおり、地域の協力体制が整っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回課題として出された施設・入浴支援・入居者の決定等については、話し合いはされているが改善されておらず課題として残されている。ホーム長会議等で話し合いの機会を持ち、可能な事から取り組んでいく事を期待する。入居者の尊厳の保持については入居者の人格を尊重した言葉遣い等がされており努力の跡が伺えた。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は管理者が一部職員の意見を聞いて作成した。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は定期的に開催されており、ホームからの状況報告に加えてメンバーからの意見として、利用者の家族同士がコミュニケーションをとるために連絡網作成の希望が出ており、今後の課題として話し合うことになっている。又メンバーの1人がホームで茶道を教えており、その開催に会わせて地域の人にも呼びかけ、地域との交流の一助となればという意見も出ている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族とは気軽に話し合える関係が出来ており、家族の来訪時にホームでの利用者の様子等を報告しながら、家族からの意見や希望等を聞いて支援に活かしている。ある利用者の家族からリハビリをもう少し増やして欲しいとの希望があり、希望に添った対応に取り組んでいる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 関連施設が中心になって秋祭りなどを開催して、地域の人達にも参加を呼びかけ一緒に楽しんでいる他、災害時の地域の人達の協力体制の話し合いも出来ている。しかしホームとして、地域の人達との交流はあまりないので、散歩の時に声をかけるなどしながら地域とのつながりを作るように努めている。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念「利用者の尊厳を大切に、家庭的で安心した生活を支援する」に「住み慣れた地域での生活」を念頭に置いた理念を加えた見直しについて、近日常に法人内のグループホーム長会議で検討して策定する事になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関・事務所・トイレに掲示しており、管理者・職員は理念を共有し、毎日の申し送り時・グループホーム会議・連絡ノート等で確認しながら、支援の場において理念に添った対応をするよう、常に心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームとしては自治会には加入しておらず、地域の行事等には参加していない。現在は運営推進会議のメンバーである区長・民生委員・介護相談員等の出入り程度で、ホームとしての地元の人達との交流はあまりない。体験学習の高校生・やるベンチャーの中学生が来訪する事がある。関連機関が中心になって行う秋祭りには地域の人達が参加している。	○	運営推進会議のメンバーを通して、地域の人達と交流を持つように努めると共に、利用者が近隣を散歩したり、買い物に出かけた際に声をかける等、近隣の人達と馴染みの関係を作ることが望まれる。
ちき					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価や外部評価で出た課題は全職員で話し合い、改善に取り組む努力をしている。今回の自己評価は管理者が一部職員の意見を聞いて作成した。	○	自己評価・外部評価は一連の過程を全職員で取り組むことで、日常のケアの振り返りや見直しが可能になり、サービスの質の向上に繋がるので全員で取り組んで欲しい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的で開催されており、すでに8回開催された。当初は一方的に状況等の説明であったが、会を重ねるに従ってメンバーからの意見が出るようになり、それらをサービスの向上に反映させている。現在、家族の連絡網や非常ベルについての話が出ており、今後の課題として話し合う予定である。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	主に法人関係者が市町村との連絡や報告等を行なっているため、ホームとしては直接市町村担当者との交流は殆どしていない。	○	市町村担当者に直接現場の声を届けるためにも、管理者は法人関係者が市町村に出向く時に同行させてもらい、馴染みの関係を作るよう努力して欲しい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「うさぎ新聞」を発行して、家族に送付している。利用者の個人的なホームでの様子や健康状態は、家族の面会時又は電話等にて報告している。面会の少ない人でも介護計画の確認のために3ヶ月に1回は来訪されるので、その時にも状況等をお知らせしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時に気軽に話の出来る雰囲気作りを心掛けている。また事務所の入り口に不満・苦情等を記入する用紙を置いて家族の意見等を聞き取るようにして、家族の要望等は会議で話し合い、運営に反映させるように努めている。最近は家族とも馴染みの関係が出来、直接意見や要望を話してくれるようになった。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の移動や離職は最小限に抑えるようにしている。新しい職員に対しては、入職時に基本的な対応の仕方や手順を説明し、約2週間は早番の人と2人体制で支援にあたると共に利用者とは出来るだけ接する機会を多く作るように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の施設で定期的に行なわれている研修会には職員が交代で受講している。法人外で実施されている実践者研修やグループホーム管理者研修等にも参加しており、内容については職員会議等で報告している。10月に行なわれる小規模多機能・グループホーム大会で発表する予定である。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会に加入しており、連協主催の研修会に参加したり、交換研修をしてサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族にホームを見ってもらうことから始め、職員が自宅に伺ったり、又一週間ほどの体験入所をしていたり、入所後も不安にならないよう、当初は家族に頻繁に来訪していただいたり、家族の声を電話で聞いてもらう等家族に協力をお願いすると共に、職員も言葉かけ等の対応に配慮しながら徐々に馴染めるように取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、支援される側と言う意識を持たず、職員は常に利用者は人生の先輩であると言う認識の元で接している。味噌作りや手打ちうどんの作り方、昔の季節毎の行事の話等々教えてもらう場面が日常的に見られる。時には「頑張って」と励まされる事もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中での声かけ等により、思いや意向の把握に努めている。利用者の言動や表情からその真意を推し量ったり、それとなく確認をしている。意思疎通の困難な方に対しては家族等から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの要望を基に、カンファレンスを行い、利用者それぞれの実情に合わせた介護計画を作成し、職員は共有している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回担当者会議で利用者の様子や気付き等を話し合い、原則3ヶ月に1回の見直しをしている。状態に変化の見られた時は期間内であっても、検討、見直しを行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は概ね家族が行っているが、家族の都合により柔軟に対応し、通院支援を行なう事もある。リハビリの必要な方には隣接するリハビリ施設に職員が同行している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地元の入居者が多く、入居前から通院していた医院がかかりつけ医になっており、事業所とかかりつけ医との関係は良好で、いつでも往診に応じてくれ、適切な医療を受けることが出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期にも対応するとの方針で、家族・医師・職員・母体施設の職員等が一緒になって対応指針の話し合いを行っており、全員で共有している。今年看取りを経験している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者と職員はミーティングや介護の現場等、折に触れて利用者の誇りを損なわないような対応や、尊敬と親しみを持った言葉遣い等について話し合い日頃の支援に活かしている。。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、利用者本位でその人らしく暮らせるように希望に添った支援をしている。その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個別性のある支援を行なっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と利用者は同じテーブルで共に食事をしながら、楽しい雰囲気作りを常に心掛けており、食後の片付けは職員と利用者が一緒にしている。又食事が楽しみなものになるため、時には利用者の希望や好みの物をメニューに取り入れるような配慮をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は概ね週に2回、月・木曜日午後入浴と決めているが、都合により時間午前に変更する事もある。	○	一人ひとりの入浴をしたい日、希望する時間入浴が望ましいが、職員のローテーションを工夫しながら、入浴の日を増やすための努力を期待したい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花壇の手入れ、モップかけ、洗濯物たたみ、食事の片付けなど利用者の経験を発揮する場面を作ったり、利用者と相談しながら月に1回はぶどう狩り等、外出の機会を作っている。又毎月1回ホームで茶道の先生がお茶会を開いており、利用者は楽しみながら参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1回は利用者の希望を取り入れながら、ぶどう狩りや秋祭りの見学等に出掛けるが、日常的に散歩やドライブで外出する事は少ない。天気の良い日には玄関前のベンチに出て気分転換を図っている。	○	事業所の事情等もあると思うが、利用者・職員両方にとっても外出は気分転換や五感刺激の機会として大切と思われるので、天候や利用者の健康状態に合わせて、散歩・ドライブ・買い物などに出かける機会を出来るだけ多く作ることを期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	帰宅願望の利用者が居るため、利用者の安全を第一に考えて施錠している。	○	鍵をかけないケアの必要性や、かけることの弊害を再考し、外出の癖の傾向の把握、職員の見守りなど、その対策について話し合いを持つと共に、運営推進会議のメンバーを通して地域の協力をお願いして、鍵をかけることを常態化しない為の工夫を検討して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の関連施設と共に、消防署の協力を得て、日中、夜間を想定した避難訓練を年に2回行い、消火器の使い方についても実習している。災害時には非常時連絡網で地域に連絡する仕組みがあり、地域の協力体制が出来ている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録し、職員は共有している。利用者の状況により刻み食にする等の配慮をしながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体は家庭的で明るく、利用者が共同で作った季節を感じさせる貼り絵が飾られ、台所からは食事の準備の匂いや音が聞こえて、生活感・季節感を実感出来る様な配慮が見られる。又居間の一部には畳のコーナーやソファが置かれ、利用者がゆっくりと過ごせる空間が確保されている、		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の作品・家族の写真・使い慣れた家具・時計・テーブル・テレビなど様々な物が持ち込まれて、利用者が落ち着いて過ごせる環境作りの工夫が見られる。		